

『主体的・対話的で深い学び』の 実現を目指す中学校国語科授業の実践

恵 藤 美 貴

第1節 はじめに

本年度、大分大学教育学部附属中学校では研究主題を「『主体的・対話的で深い学び』を生み出す単元構成」とし、実践を行ってきた。平成29年告示の新学習指導要領では、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することが求められ、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」が重視されることとなった。内容については「発達の段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど情報を正確に理解し適切に表現する力の育成」すなわち、言語活用能力の確実な育成が求められている。この実現に向けて、本校国語科においては、単元的展開を重視し、単元において「主体的・対話的で深い学び」が生じる学習展開を設定することによって、学習者の言語能力の着実な向上を図ることを狙いとして研究を進めた。

第2節 授業実践例

(1) 単元名 私の考える大分県の最重要課題はこれだ！

ー説得力のあるスピーチで伝えようー

(2) 対象学年 第2学年

(3) 単元設定の理由

学習者は、「話すこと・聞くこと」について、1年次では主にインタビューを基に友だちを紹介する活動やスピーチ、演習問題等を通して、話の全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話す力、必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら聞く力を高めてきた。2年次ではこれまで、学級討議に合わせ、根拠を基に論理的に話すことを学び、学級討議に臨むことで生活に生かそうとした。しかし、「読むこと」の単元の終末に発表を位置付けたところ、学習者の多くが「要約はできたのに、発表ではうまく話し言葉で話せず、上手に伝えられなかった」のように話すスキルに課題があることを振り返っていた。確かに実際の生活場面においても挙手をして説明したり考えを伝えたりすることに消極的であったり、話し合いでは考えを短い言葉で伝えることで議論が進んでしまったりしていた。これらのことから、話す・聞く能力について学ぶことの重要性を自覚して学習し、生活に生かそうとする意識を高める必要があると考えた。

本教材は、総合的な学習の時間で学習している「大分県」を題材とするものである。総合的な学習の時間では、「大分県の魅力度ランキングを上げよう」という、学習者自身が設定した課題の解決に向けて活動が進んでいる。学習者は、「大分県の魅力度ランキングを上げるためにはまず大分県の魅力をもっとよく知るべきだ」という考えに至り、夏休みの課題として各自大分県の魅力を調べる活動を行った。様々な魅力を発見するにつれ、学習者は大分県には魅力がたくさんあるにも関わらず、魅力度ランキングにおいて位置がそれほど高くないことに疑問をもつようになった。そこで国語科では、大分県の課題は何かを調べさせ、最重要課題はどれかを各自が根拠を明確にして90秒のスピーチで主張する活動を設定した。それぞれが挙げる最重要課題は異なることが予想され、90秒間で異なる立場の相手に自分の意見を納得させるには話の中心的な部分と付加的な部分を吟味して材料を取捨選択し、論理的な構成や展開を考えて話すが必要になるであろう。スピーチを組み立てる活動の中で、説得力のある話し方には論理的な構成や展開の工夫が必要であることに学習者は気付くことができるはずである。

指導に当たっては、まず一次で指導者が大分県の課題以外をテーマにした説得力のあるスピーチをモデルとして示し、ゴールのイメージを持たせる。その後、スピーチ大会に向けて自分たちで学習計画を立て見通しを持たせる。二次では、根拠となる情報の収集・選択をさせる。既習の説明文の論理の構成や展開、筆者が主張するために行っている工夫を再度振り返り、参考にさせることで、説得力のある論理的な構成や展開について工夫させる。できたスピーチは、ペアでiPadに記録させ、班で論理の展開について評価し合わせる。対話的な学びの場を設け、自分のスピーチの課題を明らかにし、改善させる。その上で改めて練習・発表・自己評価をさせ、どのようなことが改善に必要なだったか確かめさせる。聞き手は、論理の展開を視覚的に捉え、後のアドバイスに活かせるように付箋を活用してワークシートを構成する。付箋には、自分の考えと比較しながら聞き取ることの指導・評価のために、アドバイスを色ペンで記入させる。互いのスピーチを聞き合うことで、学習者は大分県に関する情報を増やすことになり、それらが今後の総合的な学習の時間の活動にも生きてくることが期待される。

(4) 本單元における「主体的・対話的で深い学び」の姿について

【主体的な学び】適切な根拠をもって大分県の最重要課題について具体的に主張できるように調べたり、論理的な構成や展開を工夫したりして話そうとする。

【対話的な学び】発表を相互評価して改善する場面での確にアドバイスをしたり、受けたアドバイスを自分の発表に生かしたりする。

【深い学び】発表に対する相互評価から、説得力をもって話すためには論理的な構成や展開が必要なことを理解し、発表に生かす。

(4) 単元の日標

自分の主張を理解してもらうために、自分の考える大分県の最重要課題についてスピーチする活動を通して、論理的な構成や展開を工夫して相手に話したり、構成や展開を正しく聞き取ったりできるようになる。

- 主張と適切な根拠を伴った説得力のあるスピーチにするために、いくつかの情報を集めたり整理したり、映像や対話による学びから気付きを得たりして、スピーチの構成や展開を吟味しようとしている。 [関心・意欲・態度]
- 主張に説得力をもたせるために根拠となる情報を精選し、論理的な構成や展開を工夫して相手に話すことができる。 [話すこと・聞くことーイ]
- スピーチを論理的な構成や展開に着目して捉え、説得力のある主張ができていたかを聞き取るとともに、自分の考えと比較できる。 [話すこと・聞くことーエ]
- 話し言葉と書き言葉の違いを理解し、仲間に自分の主張を理解してもらうという目的に沿って話の展開を検討したり語彙を精選したりできる。 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ーイ(オ)]

(5) 学習活動における具体的な評価規準

関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
①単元の日標を知り、説得力のあるスピーチにするために意欲的に情報を得ようとしている。 [ワークシート・観察]	①聞き手をイメージして、中心的な部分と付加的な部分などに注意して情報を選択し、論理的な構成や展開を考え話そうとしている。 (1)イ[ワークシート] ②スピーチの構成が論理的で説得力があるか、展開はスムーズかに注意して聞き、自分の発表やアドバイスを生かすことができる。 (1)エ[ワークシート]	①クラスメートに自分の主張をスピーチで伝えるという目的に合った話し方や話の展開を工夫している。 (1)イ(オ) [ワークシート] ②話し言葉と書き言葉の違い、語彙の選択による聞き取りやすさの違いなどに気付くことができる。 (1)イ(ア) [ワークシート]

(6) 単元の指導計画

展開時間	学習活動	指導上の留意点	評価
導入	1 ○単元の日標を知り、学習計画を立てる『大分県の最重要課題はこれだ！』根拠をもって伝え合おう	・モデルを示してゴールのイメージを持たせる。 ・配当時間を伝え、自分たちで計画を立てさせ、見通しをもたせる。 ・主張するためにどんな情報が必要かを考えさせる。	関①

展 開	2 3 4	○根拠となる情報を 集めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・県立図書館で主張の根拠として必要な情報を 集めさせる。 ・インターネットを使って主張の根拠として必 要な情報を集めさせる。 ・情報カードを活用する。 	
	5	○集めた情報を整理 し、根拠としてふ さわしいものを選 択しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の説明的文章を参考にして論理の展開の 工夫を確認させる。 ・付箋を用いて構成させる。 ・中心的な部分と付加的な部分に注意させる。 	話・聞① 伝国①
	6	○ipadで記録し、発 表の仕方を吟味し よう	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取る際の評価の観点となるループリック を確認させる。 ・発表時間は90秒とする。 ・個人で練習し、ペアで記録させる。 ・班で記録を見て、アドバイスを考えさせる。 	話・聞② 伝国②
	7	○班で発表を見合っ て発表内容や話し 方を吟味しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の記録を見ながら、班でアドバイスし合 わせる。 ・アドバイスを受けて改善し、練習した後もう 一度記録して変化を確認し、説得力のある話 し方をするために重要なポイントに気付かせ る。 	話・聞②
終 末	8 9	○説得力のあるスピー チで主張しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートは話の構成や展開が聞き取れた ことがわかるよう聞き取り後、<u>連</u>・<u>主</u>・<u>根</u>な ど共通の記号を付けさせる。 	話・聞① 伝国②
	10	「私の考える大分県 の最重要課題はこ れだ！」 ○振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のはじめとの変容がわかるようにワーク シートに振り返りを記入させる。 	

第3節 結果と考察

本単元を終えての成果と課題は以下の通りである。

- 課題設定から個人でさせることで、主体的な姿を多く確認できた。
- 自分たちで発表までの学習過程を考えることで、主体的な姿を多く確認できた。
- 総合的な学習の時間と関連のある課題設定をしたことで、得られる知識の量が増し、質も高まった。
- 図書館での調べ学習を通して、図書館の機能を体験的に理解させることができた。
- スピーチの構成を考えやすくするには、付せんを主張・根拠・予想される反論などに色分けして用いることが有効であった。
- 各自が抱えている困りや不安に寄り添うことで推敲のための話し合いが活発になった。
- 付けたい力を明確に示すことで、学習者自身が焦点化して学び取りやすくなる。今回は「スピーチの構成や展開」に焦点化させ、話したり聞いたりすることを促し続けた。

○iPadは、話す活動のメタ認知に有効であった。

△評価の観点として、ルーブリックを用いたが、生徒が生かし切れていなかった。また、ルーブリックの内容自体が指導目標に近づくものになっておらず、有効なものだったとは言えない。

△iPadでスピーチを撮影するのは、教室で一斉にはできない。雑音が入り聞き取れない。

△単元が大きくなりすぎた。(10時間)

本研究は、公開授業として実践した。参観者からは「iPadのよさを生かしながら、自分たちでよりよいスピーチを目指そうとしていた。」「生徒たちが高い目的意識をもち、主体的に活動に取り組む様子がよかった。仲間からのアドバイスを素直に受け入れ、納得して自分の中に取り入れようとする姿、よりよいものをつくりあげようとする意欲がとてもいいと思った。」「個人での考えでは十分結論が出なかった生徒が、グループになって考えが広がり、結論に至るという姿が見られた。」等の声があり、おおむね狙いに沿った成果が得られたと考えている。

総合的な学習の時間との関連を図った課題を設定したことで、期待以上に質の高い学びが得られる単元となった。学習者は、iPadを使って自分のスピーチをメタ認知したり他者のスピーチを聞いたりすることを通して、説得力のあるスピーチには構成や展開が重要であること、根拠には説得力のある事実が必要であること、話し方によって聞き手に与える印象が変わることなどを学ぶことができたようである。また、総合的な学習の時間では、その後の学習において、修学旅行の際、東京で活躍する大人との意見交換をするワークショップを実施した。その中で「大分県に何を期待するか、大分県がどうなったら嬉しいか」という質問に対して、「新幹線が通って活性化することを期待する」と答えた生徒がいた。これは、国語科のスピーチ



県立図書館でレファレンスを体験



iPadを見ながらアドバイスし合う



多目的室でスピーチ大会

大会を通して本人以外の数名の生徒が発表した内容から生まれた考えであろう。スピーチ大会を通して、各自に新たな発想や思考の深まりが生まれていることが示唆される。また、修学旅行では東京駅とお台場で、道行く人に大分県をPRする活動にも取り組んだ。そこから、多くの方との対話を通して大分県の観光の持つ魅力や課題が浮き彫りになってきた。現在、「大分県の魅力度ランキングを上げよう」というテーマで行ってきた総合的な学習の時間のまとめのプレゼンテーション大会に向けて班ごとに発表準備を行っている。情報の精選、構成や展開、発表の仕方の工夫などについて話し合う様子からは、国語科で付けた力が生かされていることが伺える。教科の枠を超えたダイナミックな単元構想と、体験的な学びが、学習者の意欲を掻き立て、主体的で対話的な深い学びを生み出す大きな要因になるのであろう。

今後は、教育課程にクロスカリキュラムを意識した単元的展開を効果的に取り入れつつ、国語科で身に付けた言語活用力が他教科で有効に作用するよう、一年間あるいは三年間の見通しをもって取り組んでいくべきだと考えている。国語科の一員として、学習者の言語感覚を豊かなものとするための綿密な計画と工夫を怠らず、今後も励んでいきたい。

(えとう・みき 大分大学附属中学校)